

生協の「つながる力」を地域の復興に生かしたい



いわて生協

震災により県内各事業所との連絡が軒並み途絶えた、いわて生協。本部では被害状況の把握にどう取り組んだのか？また、津波による壊滅的被害を受けた沿岸部で、今後、生協は地域復興にどのような役割を果たすことができるのか？理事長の飯塚明彦さんと専務理事の菊地靖さんにお聞きした。

情報化社会ゆえのもろさが明らかに

「とにかく欲しかったのが情報でした」

いわて生協理事長の飯塚明彦さんと専務理事の菊地靖さんが、共に指摘したのが震災後の情報収集の困難さだった。

3月11日午後2時46分、盛岡市に隣接する滝沢村のいわて生協本部は、経験したことの無い大きな揺れに襲われた。その直後に震災対策本部を設置。だが、情報収集で大きな壁に突き当たった。携帯電話も固定電話も使えず、コンピュータネットワークもダウンしたためメールも使えなくなってしまうからだ。

組織内の情報ばかりではない。停電でテレビを見ることもできず、唯一の情報源はラジオだけという状況になってしまった。しかも、そこから入ってくるのは途切れ途切れの被害情報で、全体像とは程遠い。いったい何が起きているのか。

「そこで本部職員の安否確認を行なうとともに、盛岡市内の店舗については職員を直接現地向かわせて、被害状況の確認を行なうことにしました。これによ



理事長 飯塚明彦さん

り、Beerfup青山では天井や壁の一部が落ちるなどの建物被害を受けたものの、他の店舗には大きな被害はないことが確認できました」（飯塚理事長）

沿岸の事業所に向かうも通行止めで確認できず

翌12日の早朝から、本部職員を各店に配置し、店頭販売の支援に当たらせて。レジが使えなくなったため、職員は電卓を使用して営業を続けていたのだ。

「しかし、沿岸部にある店舗と共同購入（宅配）支部とは依然、連絡がつきませんでした。そこで数台の配送車で、分担して直接現地に向かうことにしたのですが、それもうまくいきませんでした」（菊地専務）

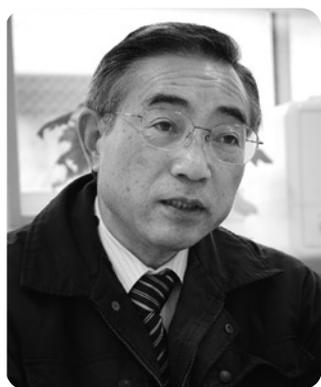
本部から沿岸部までは通常でも車で2時間かかるが、その日は往復に丸1日かかった。戻った職員からは、「視察できた支部は無事」という朗報がもたらされたが、通行止めのため宮古、釜石、

けせん（大船渡市）の3支部に行くことはかなわなかった。その夜、電気が復旧して、テレビを見てがくぜんとした。沿岸部が軒並み津波の被害を受けていたからだ。3つの共同購入支部は津波に飲み込まれてしまったのだろうか。13日になって、やっと宮古への支援助物資輸送が認められ、マリンコープDORAをはじめ、店舗が無事であることが確認できた。だが、釜石支部と、けせん支部は津波の直撃を受けていた。

緊急時だからこそ商品を届けたかった

2支部の津波被害のショックも大きかったが、現在の共同購入システムのもろさも露呈したという。

「昔のように手作業でやっていた時は、あるものを何でも届けることができました。しかし、共同購入がシステムに頼るようになったことでの弱さ、一元管理ではイレギュラーな事態に対応しづらいこと



専務理事 菊地 靖さん



津波被害を受けた大船渡市の中心部(須崎川、写真左)と陸前高田市(写真右)の様子。

地域の復興に 生協の力を生かしたい

が分かりました。もしもう一度、同じ規模の災害が起きた時に、どう物資を配っていたらいいのか。そのために燃料をどう確保するのかという、大きな課題が残されました」と菊地専務は話す。また、「これまでは雨が降ろうが雪が降ろうが共同購入の商品は必ず届く、それで組合員からの信頼を勝ち得てきました。震災という緊急時だからこそ、それができなかったことを悔しく思います。今後の教訓として対策を考えていきます」と戒めの言葉を継いだ。

3月28日から、共同購入再開に向け、商品案内の配布が始まった。いわて生協の独自企画を含めても約2500アイテムで本格復旧には程遠いが、食卓の基本を取り戻すには十分役立つはずだ。また、その配布は沿岸部の組合員の安否確認も兼ねる大事な役割を果たすことだろう。

「毎週きちんと食料を届けることで、まずは組合員さんに安心してもらいたいと思います。そのために、注文書の回収時に二丁ズを把握して、2週目以降は、(震災後に)どんな商品を求めているのか、丁寧に要望をくみ取り、その声に応えていきたいと考えています」と飯塚理事長



は言う。こんな時だからこそ、商品を通して組合員との結び付きを深めていくことが、これまで以上に大切だということだろう。

沿岸部では、共同購入の利用者の中で家を流された人も多く、避難所での生活を続けている人も相当数いると思われる。いわて生協では、避難所や仮設住宅に入る組合員に向けて大型班をつくる方針だ。また津波によりスーパーなど食料品の購入先がなくなってしまう地域でも同様に取り組む予定だという。「班によって地域のつながりをつくる」という生協の基本が、これからの地域の復興に役立つことを期待したい。

(文・写真 山本明文)

みやぎ生協

いわて生協

コープふくしま

コープネット



再開に向けて動き出した共同購入。4月6日から注文書の回収も始まっている。(写真 桐生広人)

2010年11月に建てられたばかりの共同購入釜石支部も、津波により大きな被害を受けた。